

劇場創造アカデミーは、劇場の活動に毎日ふれながら、「これからの演劇、これからの劇場」を切り拓いていける劇場人を総合的に育成する新しいかたちの研修所です。

コースは演技コース、舞台演出コース、劇場環境コースからの選択制。演劇について、劇場について、「知り、考え、実践する」ことに邁進する全日制2年間カリキュラムを実施しています。

コースの区別なく講義・実技とも同一のカリキュラムを受講する1年目。

それぞれが希望する活動分野の専門的な個別指導を中心にした2年目。

実践的な力の養成だけでなく、将来の活動につながる「出会いと機会」を提供することで、演劇、劇場についての専門家を育成します。とりわけ、活動の場を東京に限らず、地方での活動を将来的に見据えた人材の育成に取り組んでいます。

1年目 「基礎課程」

「表象する身体」から「芸術と社会」までの表広い分野を実技・講義を通してバランスよく知り、身につける。

第一線で活躍する講師陣のもと、講義では、各国各時代の舞台芸術の解説、戯曲の読解から、同時代的な劇場事情までを含め、演劇を創造的かつ、総合的に読み解きます。また、実技では、現代戯曲における役へのアプローチ方法をはじめ、狂言や合気道など伝統的な身体技法から、ダンス、即興演技まで様々な身体運用を学びます。舞台芸術と劇場に関して体系的に学べるカリキュラムになっています。

2年目 「専門課程」

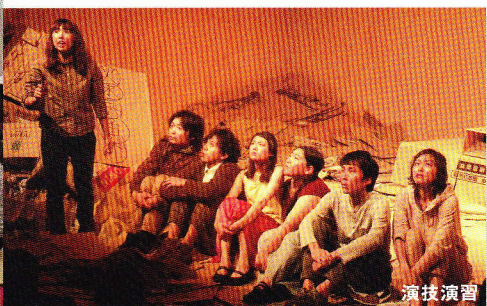
それぞれが目指している分野について、劇場施設を活かしたより具体的で専門性のある内容の実技・演習を各自が選択してスキルを深める。

各コースのゼミ（演技・舞台演出・劇場環境）と必修科目、選択科目の3つで授業を構成しています。劇場業務を体験する「劇場研修」をはじめ、スタジオでの演劇・パフォーマンス作品の発表、演劇教育や劇場運営・マネジメントに関する文献購読、ワークショップ現場への参加、地域劇場へのフィールドワークなど、理論と実践をバランス良く学べるカリキュラムになっています。2年間の総括として、全員がキャストやスタッフとして参加する「修了上演」の発表を座・高円寺の劇場で行います。

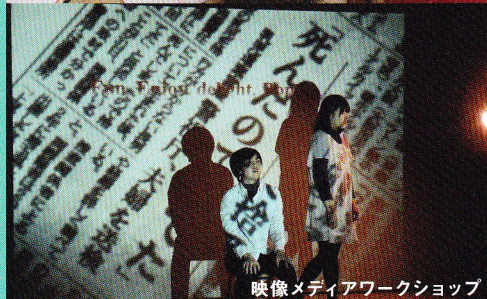
4月下旬から5月上旬の「高円寺びっくり大道芸」と「み」座の市」や、劇場が拠点となる、高円寺四大祭りにボ



テキスト研究



演技演習



映像メディアワークショップ



発声基礎



劇場環境講



身体表現基礎

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月												
1年目▶▶												全員共通カリキュラム											
ガイダンス	講義				講義				講義				成果発表会	春期休暇									
	パフォーマンス概論 伝統演劇論 劇場概論				テキスト読解 舞台美術基礎 セノグラフィ論 映像メディアワークショップ				ドラマトゥルク論 劇場環境論 特別講義														
	実技				実技				実技														
	狂言 合気道 身体表現基礎 演技基礎 発声基礎 ワークショップファシリテーション				狂言 合気道 身体表現基礎 演技基礎 発声基礎 ワークショップファシリテーション				劇場技術論基礎 成果発表会稽古														
夏期休暇												冬期休暇											

2年目▶▶			コースに合わせたゼミ形式		
必修			必修		
劇場研修 企画プレゼンテーション			劇場研修 企画プレゼンテーション		
ほか			ほか		
ゼミ			ゼミ		
演技ゼミ 舞台演出ゼミ 劇場環境ゼミ			演技ゼミ 舞台演出ゼミ 劇場環境ゼミ		
選択			選択		
テキスト研究 演劇教育演習 発声・歌唱 演技実習 身体表現演習 劇場環境実践論			テキスト研究 演劇教育演習 発声・歌唱 演技実習 身体表現演習 劇場環境実践論		
ほか			ほか		
			修了上演稽古		
			修了上演		

んなのリトル高円寺」に研修として1年目より参加。その他にも、劇場の事業である「みんなの作業場」「絵本のカフェ」ランティアスタッフとして関わる事ができます。

1週間講義スケジュール例(1年目前期)					
09:00	月	火	水	木	金
10:00	パフォーマンス概論 (講義)	伝統演劇論 (講義)	劇場概論 (講義)	合気道 (実技)	発声基礎 (実技)
12:00	昼休み				
13:00	狂言 (実技)	ワークショップファシリテーション (実技)	演技基礎Ⅰ (実技)	身体表現基礎Ⅰ (実技)	演技基礎Ⅱ (実技)
15:00	自主稽古				
18:00					

受講生特典

- 座・高円寺の主催・提携公演の舞台稽古もしくは本公演(年30作品程度)を無料で観劇することができます。(レポート提出あり)。
- 日本劇作家協会が主催する「戯曲セミナー」(年30回程度)に、聴講生として参加することができます。(アカデミー1年目対象、人数限定、添削授業への参加は不可)。

修了生の主な活動

現在、劇場創造アカデミーでは、1期生から4期生までの約70名がカリキュラムを修了しています。修了生の活動は、分野も地域も多岐に渡り、ひとりの演劇人・劇場人・社会人として、自身の持つ才覚を発揮できる場所を見出しています。

- 主な就職先・勤務先 いわき芸術文化交流館アリオス(福島県)／久留米市市民文化部長久留米シティプラザ推進室(福岡県) 杉並区立杉並芸術会館 座・高円寺(東京都)／穂の国とよはし芸術劇場PLAT(愛知県)／株式会社シアター・ワークショップ(東京都) 株式会社ファイブ・ミニッツ(東京都)／王子小劇場(東京都)／合同会社シアターねこ(愛媛県)／ザ・スタッフ(東京都)
- 主な所属劇団・団体 岡村本舗／有限会社現代制作舎／ストローハウス／有限会社岸川事務所／株式会社ナノスクエア 株式会社長谷川事務所／株式会社ビジョン・ファイブ
- 主な所属劇団・団体 革命アイドル暴走ちゃん／劇団黒デント／ダンス01(研修生)／遊覧家
- 主な結成団体・ユニット 演劇ユニットnoyR(3期生)／劇団ドクトベッパズ(1期生)／250km圏内(1期生)／Plant M(2期生) プリズム人(2期生、3期生)／Radico Theatre(4期生)／ワキドロ(1期生、2期生)

※50音順にて掲載

■パフォーマンス概論

鴻英良（おおとり・ひでなが）演劇批評家

1948年生まれ。2002年から04年までドイツの国際演劇祭ラオコオン（カンパナーゲル、ハンブルグ）の芸術監督を務める。著書に『二十世紀劇場——歴史としての芸術と世界』（朝日新聞社）、訳書にカントール『芸術家よ、くたばれ!』（作品社）など。

内野儀（うちの・ただし）演劇批評家、東京大学大学院教授

1957年生まれ。国内外の現代演劇、ダンス批評を中心に、雑誌、テレビなどさまざまな媒体で活躍。著書に『メロドラマからパフォーマンスへ』『メロドラマの逆襲』『Crucible Bodies』など。

佐々木敦（ささき・あつし）批評家、早稲田大学文学学術院教授

1964年生まれ。映画、音楽、文学、演劇などクロスジャンルで批評を展開。HEADZ主宰。雑誌エクスボ編集発行人。映画美学学校批評家養成ギフス主任講師、著書に『シチュエーションズ』『4分33秒』論』『90年代論』『ニッポンの音楽』『批評時空間』『未知との遭遇』『即興の解体/懐胎』『ニッポンの思想』ほか。

■伝統演劇論

竹森佳史（たけもり・よしふみ）日本芸術論、表象文化論

放送大学客員准教授。授業は、現代の演劇人にも重要である日本の伝統演劇の発想や構造を学んでもらうとともに、現代演劇に新しい反省をもたらし演劇の記号学への一歩となることも視野に入れている。共著書に『文学の言語行為論』など。

■劇場概論

木戸敏郎（きど・としろう）元国立劇場演出室長

古代から現代まで東西の主要な劇場建築を通覧してそこに込められている意味の構造を解説し、劇場構造というハードを演出というソフトに変換するメカニズムについて論じる。

佐伯隆幸（さえき・りゅうこう）演劇評論家、学習院大学名誉教授

著書に『現代演劇の起源』、『記憶の劇場/劇場の記憶』など。翻訳書に『コルテス戯曲選2』など。

伊東正示（いとう・まさじ）劇場コンサルタント、建築家

新国立劇場の設立準備に参加後、1983年シアターワークショップ設立。以降、さいたま芸術劇場、東京国際フォーラム、吉祥寺シアターなどの劇場コンサルティングを行う。

■テキスト読解

松田正隆（まつだ・まさたか）劇作家、演出家、マレビトの会代表

1962年生まれ。『海と日傘』で岸田戯曲賞受賞。青年団、文学座などで描き下ろし多数。2003年に『マレビトの会』を結成。F/T10で『HIROSHIMA-HAPCHEON』を発表。

宮沢章夫（みやざわ・あきお）劇作家、演出家、作家

90年『遊園地再生事業団』の活動を開始。『ヒネミ』で岸田戯曲賞受賞。エッセイ、評論、小説など執筆も多く、一昨年度まで早稲田大学で教鞭をとるなど活動は多岐に渡る。

■セノグラフィ論

藤井慎太郎（ふじい・しんたろう）早稲田大学文学学術院教授

1971年生まれ。表象文化論、西洋舞台芸術論が専門。講義では舞台芸術作品と空間の関係について論じる。共著に『演劇学のキークース』など。

■映像メディアワークショップ

飯名尚人（いいな・なおと）ダンス・アンド・メディア・ジャパン主宰

デジタル・メディアと舞台芸術のコラボレーションをコンセプトに様々なワークショップ、パフォーマンスを展開。講義では、舞台での映像使用、映像記録の手法などを論じる。

■舞台技術基礎

鳥次郎（しま・じろう）舞台美術家

小さなアトリエから野外、テント、大中小劇場まで、あらゆる空間の舞台美術を手がける。近年の作品に『ナチャ・クラサ』、『リチャード三世』など。紀伊國屋演劇賞個人賞など受賞多数。

■ドラマトルク論/テキスト研究

長島確（ながしま・かく）東京藝術大学講師、翻訳家

戯曲に特化した翻訳の可能性を探り始め、日本におけるドラマトルクの草分けとなる。参加作品に『四谷雑談集十四家の怪談』ほか。著書に『アトレウス家の建て方』。

■劇場環境論/劇場環境実践論(コミュニティデザイン学演習)

中村陽一（なかむら・よういち）社会デザイン論

立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科委員長・教授、社会デザイン研究所所長。80年代半ばより現場と往復しつつNPOや社会的企業、社会デザインの実践的研究、基盤整備、政策提言に取り組む。文化庁事業「公共劇場スタッフのための社会デザイン力養成講座」統括。

■企画・プレゼンテーション/劇場環境ゼミ

高宮知数（たかみや・ともかず）マーケティング・プロデューサー

広告代理店のマーケティング部門、シアターアプルの劇場プロデューサーを経て独立。立教大学大学院兼任講師、久留米シティプラザ オープニングディレクター（H28年開館予定）。

■ワークショップ・ファシリテーション/企画・プレゼンテーション/演劇教育

高尾隆（たかお・たかし）演劇教育、即興演劇

1974年生まれ。東京学芸大学准教授。インプロ（即興演劇）創始者の一人、ジョンストンに学び、即興俳優、ファシリテーターとして活動。

■狂言

山本東次郎（やまもと・とうじろう）狂言師

1937年生まれ。大蔵流・故三山本東次郎則重の長男。武家式楽の流れを汲む山本会を主宰。芸術選奨文部大臣賞、日本芸術院賞、紫綬褒章などを受賞。重要無形文化財総合指定保持者（人間国宝）。

■合気道

清水健太（しみず・けんた）天道流合気道天道館道場長

管長である清水健二は合気道創始者植芝盛平氏の内弟子として修行した後、1969年に独立。1982年より天道流合気道を創設した。後進の育成、指導にあたるとともに、ドイツをはじめ海外でも合気道の普及につとめる。

■身体表現基礎/身体表現演習

竹屋啓子（たけや・けいこ）ダンサー、振付家、ダンス01主宰

マーサー・グラハムカンパニーのメンバーとして活動後、日本のモダンダンス界のリーダーの一人として活躍。ダンス東風企画（1989～2001）としてアジアの芸術家との共同創作、両国上演を行う。その他海外公演多数。芸術選奨文部大臣新人賞など受賞。

小野寺修二（おのでら・しゅうじ）演出家、振付家

1995年パフォーマンスシアター「水と油」を結成。全作品の構成、演出に関わる。2008年から「カンパニーデラシネラ」を主宰。振付家・パフォーマーとして活動の場を広げている。

■発声基礎/発声・歌唱

伊藤和美（いとう・かずみ）ヴォイストレーナー

演劇やオペラのスタッフを務める傍ら、06年まで「時々自動」に作曲、パフォーマーとして参加。05年度文化庁派遣在外研修生として1年間渡英。現在、新国立劇場演劇研修所講師。

■演技基礎/演技ゼミ/舞台演出ゼミ

佐藤信（さとう・まこと）劇作家、演出家

1970年に「黒色テント68/71（現、劇団黒テント）」の結成に加わり、作・演出として、全国120都市におよぶテント劇場による移動公演を行う。『座・高円寺』芸術監督。個人劇団「鴉座」主宰。

生田萬（いくた・よろず）劇作家、演出家

1981年に「ブリキの自発団」を結成。「小劇場ブーム」の中心劇団のひとつとして高い評価を得、銀紛蝶、片桐はいりなどを輩出する。代表作に『夜の子供』など。TBS「世界遺産」構成作家、カラリ☆ふじみ芸術監督などを歴任。

■演技基礎/演技演習

木野花（きの・はな）俳優、演出家

1974年に女性だけの劇団「青い鳥」を結成。80年代の小劇場ブームの旗手的な存在となる。同劇団を退団後は、女優・演出家として活躍する一方、若手俳優の育成にも力を注いでいる。

■劇場技術論基礎Ⅰ

服部基（はっとり・もと）照明家、LDC-J会員

こまつ座をはじめ演劇、ミュージカル、オペラ、能とひろく舞台照明をてがける。ライティング デザイナーズ クラブ オブ ジャパンの一員として講師に参加。

齋藤茂男（さいとう・しげお）照明家、LDC-J会員

演出家の佐藤信や串田和美、白井晃等との仕事多数。最近の主な作品に「リア」（佐藤信）、「9days Queen」（白井晃）、コクーン歌舞伎「三人吉三」（串田和美）などがある。今回は、ライティングデザイナーズ クラブ オブ ジャパンの一員として講師に参加。

■劇場技術論基礎Ⅱ

藤田赤目（ふじた・あかめ）舞台音響

名古屋市出身。北村想、竹内統一郎、生田萬、岩松了、鄭義信、渡辺入り、松尾スズキら、現代演劇の音響プランの仕事が多い。桜美林大学芸術文化学群非常勤講師。日本舞台音響家協会理事。

渡邊邦男（わたなべ・くにお）舞台音響

ミュージカルからオペラ・バレエまで、幅広い分野での音響プランを手がけると共に、舞台音響家の育成にも力を注いでいる。主な作品に「エリザベート」「三文オペラ」「十九歳のジェイコブ」「重人たち」「しらゆき姫」等。新国立劇場音響課長。日本舞台音響家協会理事。

上記の他に、年数回の特別講義を予定しています。
（今までの主な特別講師：テレサ・ルドヴィコ、津村卓、など）。
演出家、プロデューサー、ワークショップリーダーまで、各分野にて活躍されている方を特別講師として招きます。2015年度の特別講師は決まり次第、ウェブサイトに掲載します。